

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	2	ぬくもり・雄武	整理番号	26
基本施策	8	子育て・子育ての充実	評価責任者	児童福祉館長 豊田 通敏
単位施策	1	「子育て」支援の強化		

1 施策の概要

基本方針	保育所や児童センターにおいて、自然体験や多世代交流などを積極的に採り入れた保育や教育を推進するとともに、身近で安全な遊び場の確保や児童虐待の防止対策の推進、さらにはまちぐるみでの見守りなどの安全な生活環境づくりなどに努め、「子育て」支援を地域一体となって進めます。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	総合計画前期策定時に同じだが、次年度より沢木、幌内地区等の児童クラブ会員の利用促進のため、各地域の小学校から児童センターまでの迎への車を配する通所事業を開始予定としている。（民間委託を予定）	児童センターは、児童の健全なる育成と体力増進を目的に設置され、その利用者数も年間延べ25,000人弱で推移している。こどもの日の集いやこども祭りなどの各種事業では、専門職員によるもののほか、児童民生委員や高齢者団体、高校生ボランティアなどの協力を得て、それぞれ特色のある内容で展開している。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	総合計画前期策定時に同じであるが、もっと小学校等関係機関との連携を密にしていかなければならない。	遊びの持つ教育効果（自主性、社会性、創造性等）が十分に発揮できるようなプログラムを考案する必要がある。 日中（平日）子どもの利用がほとんどないため、乳幼児を持つ母親などの利用を促進する必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	児童センター利用者数						
	定義等	1日の利用者数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							85人/日
	実績値	80.7人/日（H18）	87.62人/日	75.75人/日	71.5人/日	70.2人/日		
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	放課後子どもプラン推進事業	児童センター係	4,046	A	継続/現状維持	A
②	児童ふれあい交流促進事業	児童センター係	1,200	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	児童センターは、子ども達に遊びを保障する児童施設であるが、それを通して子どもの生活が安定する環境づくり（事業、施設整備）が行われている。
② 有効性	A	遊びは、子どもの人格の発達を促す上で欠かすことのできない要素であり、子ども達は遊びを通して考え、決断し、行動し、責任をもつという自主性、社会性及び創造性を身につけるようになる。これらの要素が児童センターに通うことによって、少しずつ身につけてきていると思われる。
③ 効率性	A	実施している事務事業は比較的自由に参加でき、あまり束縛されない環境のもとで子どもが自立できるよう支援を行っており、「子育て」の観点から効率的に活動が展開されている。
④ 公平性	A	児童センターの設置目的から、だれもが自由に利用（参加）できる。
⑤ 町民意見の反映	A	利用する児童やその保護者から意見等があったときは、可能なものについて反映するように心がけている。（平成24年度にアンケートを実施する）

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
児童センターは、体育館（遊戯室）、図書室、集会室（ボランティア室）、調理室、静養室、児童クラブ室等が設けられており、児童施設としては充実している他、専門の指導員（職員）によって、事業展開されており、児童の健全な育成が図られている。	同左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
当施策は、児童センター設置目的及び本町の子ども達の健全なる育成のためにも必要不可欠なものであるが、児童センターの運営や事務事業については、今後も見直し等の検討を続け、より良い施設となるよう努力していく。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止